



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4040 号 2017.11.25 発行

78歳と21歳のシェア居住 西宮で1週間の実験 神戸新聞 2017年11月24日



共に食卓を囲む楽野初恵さん（右）と武庫川女子大4年の石橋佳寿美さん＝西宮市笠屋町

1人暮らしの高齢者の自宅に若者が一時住み込む「短期異世代シェア居住」が、兵庫県西宮市で試験的に始まっている。NPO法人などが中心となり、独居高齢者の孤立化解消に加え、空き家問題の解決も目指す。26日まで女子大生が70代女性と1週間同居し、メリットや課題を探る。（竜門和諒）

海外では広がりつつあるという異世代シェア居住。同市の鳴尾東地区で住民交流カフェを運営するNPO

法人「なごみ」や市などで作る実行委員会が企画した。今年8月、実行委が同地区の高齢者16人に意向を聞き、楽野初恵さん（78）が協力を買って出た。

楽野さんは5年前、夫の孝雄さんを膵臓がんで失った。一人息子は遠くに住んでいるため、1人暮らしに。税金や保険料の支払いなどは夫に任せていたため、苦勞を感じていたという。

楽野さん宅に住み込むのは、武庫川女子大4年の石橋佳寿美さん（21）。2人は「楽ちゃん」「かすみちゃん」と呼び名を決め、朝と夕、一緒に食卓を囲む。

「グラタン皿なんて1人じゃ使わへんから、出すの6年ぶりくらいかな」「コーンたっぷりでおいしいです」。食事中、楽野さんが好きな相撲の話題が飛び出し、石橋さんが聞き入る。

共同生活で見つかった課題は、石橋さんが日記に書き留める。寝静まった夜中に家の中を歩く際の足音や、引き戸のきしむ音。異世代同居の注意点を細かく記録し、改善につなげる。

慣れない同居生活だが、楽野さんは「インターネットでの買い物を手伝ってもらったこともある。1人でご飯を食べるよりおいしいし、生活に張りが出る」と順調そう。石橋さんは「今は料理などやってもらうことが多いけれど、残り数日は積極的に家事を手伝いたい」と話していた。

実行委は12月、同地区の住民向け報告会で成果を披露する予定。同法人の田村幸大事務局長（31）は「将来的に空き家にお年寄りと若者が同居し、高齢者の社会参加と世代間交流の両方を実現できれば」と話す。

<放り出された障害者 大量解雇の現場から> (4) 職探し

中日新聞 2017年11月22日

会社のビルに入る時、わずかな段差に阻まれた。松葉づえが滑って、転んでしまった。タクシーの運転手に手伝ってもらって事なきを得たが、面接の担当者には言えなかった。

『そんな体では、採用しない』と言われるかもって思ったから」。朝から雨が降り、肌寒かった十月下旬の日のことを名古屋市北区の女性（57）は振り返る。

壁に松葉づえを立て掛け書類を読み込む女性=名古屋市中村区のハローワーク名古屋中で

女性は脳性まひのため脚が不自由で、松葉づえと車いすが手放せない。同区の障害者就労継続支援A型事業所「パドマ」で働いていたが、運営していた同区の民間企業「障がい者支援機構」が経営破綻し、急に八月末で解雇された。

もともと、名古屋市の区役所で三十年余り、電話交換手をしてきた。健常者の職員と二人の部署で、かかってきた電話を担当部署につないだ。座ったままでできる仕事だが、同僚より動きはゆっくり。部屋の掃除や、朝にお湯を沸かしてポットに入れるのも同僚がしてくれていた。「私には運べない。やると言っても『危ないし、時間がかかる』と言われてしまう」



同僚に申し訳ないという気持ちが常にあった。負担を減らすため、健常者の職員を増やせないか上司に相談したこともあったが、だめだった。「同僚は私のおもり役にならざるを得なかったし、部署の仕事をうまく回す責任も同僚の方に重くかかったと思う。それでも、私なりについていこうと大変だった」。ぎっくり腰になったのを機に、二〇一三年に退職した。

パドマへの就職は一年半後に決まった。同僚が皆、障害がある職場でも、周囲に対する心苦しきは変わらなかった。靴下の箱詰めやシール貼りなどの内職仕事を中心だったが、人によって速さや正確さは違う。「体に障害がない精神障害の人たちが、車いすの人ら障害が重い人の分も仕事をしていた。でも、給料は同じ。たぶん、仕事ができる人はぼやいていたと思う」

今は一人暮らし。失業保険は一年後に切れる。これまでも障害年金とパドマでの給料、家族からの援助では足りず、以前の貯金を切り崩してきたが、年内にも底をつきそうだ。

面接に行ったのは、コールセンターの仕事。経験が活かせる上、自宅からほど近い。職場やトイレなどで、車いすや松葉づえを使えるかも確認した。しかし、不採用だった。「移動のことだけでなく、健常者ばかりの中で、一日二百本もの電話をかけることに耐えられるのか、不安に思われたかも」。周囲に負担をかけずに働けるか。その不安がいつもつきまとう。

一六年度のハローワークを通じた障害者の就職件数は九万三千二百二十九件で、前年度比3・4%増。職を探して見つかった人の割合も48・6%で、同比0・4ポイント増だった。国は企業や自治体などに一定割合以上、障害者を雇用するよう義務づけている。来春からその割合が引き上げられることもあり、障害者の雇用は増えると期待されている。

それでも、女性は「やっぱり車いすはネック。一般就労にもチャレンジしたいけど、自分の状態を考えるとやっぱりA型かな」。より障害が重い人が通うB型よりも収入は多く、生活は安定する。それだけに、障害者にとって“転ばぬ先のつえ”のA型が各地で閉鎖されるのは気にかかる。「一般就労が難しく、A型を当てにするしかない人もいるのだから」

(出口有紀)

<放り出された障害者 大量解雇の現場から> (5) 高い離職率

中日新聞 2017年11月23日

液体石けんの容器二十四本を箱に詰め、シールを貼って封をする。一時間に一箱を仕上げる同僚たちを横目に、七箱ほどを仕上げる。「仕事が物足りない分『なんぼでもやったるわ』となる。でも、時給は一緒。どないなっとなんねん」。名古屋市北区の障害者就労継続支援A型事業所「パドマ」で働いていた五十代の精神障害がある男性は、こう笑う。

パドマの元利用者たちによる会で現状を話し合う男性（手前）＝名古屋市熱田区の労働会館で



職場で一緒に働いていたのは十二人。知的や視覚と障害はさまざままで、その重さもまたさまざま。人によって仕事のスピードも違う。自然と男性がゆっくりな人の分をカバーする形になる。指導役だった従業員の女性は「仕事が早く、間違いもなかった」と話す。ノルマや納期に追われることもなく、男性にとっても働きやすい職場だった。

しかし、通い始めて一年がすぎたころ、突然、シャッターが下ろされ、八月末で解雇された。給料がなくなり「年金と失業手当では、家賃を払うと足らん」。貯金を崩してしのいでいたが、十月から別のA型で働き始めた。同時に、元利用者たちと困り事を話し合う会を立ち上げた。

男性は二十五年ほど前に、関西を離れ東海地方の郵便局に勤めた。しかし、家族や職場の人間関係などからうつ病になり、十年ほど前に退職した。大型トラックの運転手などをしたが、精神的に不安定な状態での勤務はほどなく限界に。二年前、障害者認定を受けた。障害年金を受給できるようになり「今は独身なので、A型の給料があれば普通に暮らせる」。

障害者の就職率は上昇傾向にあるものの、その後も安定して働き続けるとなると難しいケースが少なくない。障害者職業総合センター（千葉市）が四月にまとめた調査では、A型を含む就職先への定着率は、就職後三カ月時点では80・5%。それが一年の時点では61・5%に落ち込む。一方、厚生労働省の調査では、二〇一六年三月の大卒で就職後一年以内に仕事を辞めた人の割合は11・3%。調査主体が違い単純比較はできないが、それでも両者の開きがうかがえる。

男性も、精神障害者手帳の交付を受けた一五年から、昨年、パドマに就職するまでA型六カ所を渡り歩いた。一日しか持たなかったA型では、同僚が話してくれず、仕事のやり方も教えてくれなかった。障害が影響することもあり、仕方がないとは思ったが耐えられなかった。

別のA型では、倉庫の中でびんや缶の仕分けをしたが「とにかくくさい。帰りにバスに乗ると、周りに変な顔をされるほど」。公園のトイレ掃除もきつかった。一日三十カ所、一カ所十分ほどで、便器のこびりつきを鉄のへらで落とす。「作業中に着ていたカップを脱いでも、におっている気がした」。一カ月以上は続けられなかった。

現在勤めるA型では、ピザ店のチラシ折りなどが担当する主な仕事。「昔の仕事からしたら、どんな仕事でも簡単にできるというのが本音」

だから、やりがい求めて一般企業への挑戦も頭をよぎる。ただ、日によって感情に波があるという障害を、転職先の同僚に理解してもらい、人間関係をつくるのは大変だ。「何か言われたら、自分を抑えられないんじゃないかと心配。だから、今いる場所がいいと思うようにしている」

＝おわり（この連載は出口有紀が担当しました）

スパイクシューズ 足に負担かけ負傷も

中日新聞 2017年11月21日

成長期の着用気をつけて 爪先に余裕を 使用は短時間

野球やサッカー、陸上などさまざまな競技で使われるスパイクシューズ。底面に付いた金属などの突起で地面を捉えやすい機能があるが、足への負担は大きく、成長期の子どもにとっては逆に足を傷める原因になることも。シューズ選びと日ごろの履き方には注意が必要だ。（小中寿美）

中学校でソフトボール部に入った愛知県の女子生徒（13）は、部活動でスパイクを履くようになってから足の爪が黒くなったり、割れたりし、きれいに伸びなくなった。2年

に進級するのを機に1センチ大きいサイズに買い替えると爪は改善したが、その後も足の甲には痛みを感じている。「スパイクを履かないわけにはいかず、足を守る方法を知りたい」と母親(43)は訴える。

足の疾患に詳しい塩之谷整形外科(同県豊橋市)の塩之谷香副院長(57)は「靴の先端に足の指が当たることが爪が傷んだ直接の原因。そのまま運動を続けると爪の下に出血を起こし、ひどいと爪が剥がれることもある」と説明する。

競技によっては、指導者やスポーツ用品店が足にぴったりのサイズを勧めることもあるというが、「けがを防ぐには、

最低1センチは爪先に余裕を持たせて」と塩之谷さん。特に成長期は急に足が大きくなることがあるため「年度や学期の変わり目など定期的にチェックを」と念を押す。

一方、プロのスポーツ選手の相談にも応じている靴専門店「フットマインド」(名古屋市中区)の栗林薫社長(55)は、女子生徒の場合は「スパイクが不調を引き起こした可能性がある」と指摘する。

素材が皮革のスパイクはスニーカーと比べて硬いうえに滑りにくいため、ストップ運動を繰り返した際などに、足にかかる負担が他のシューズに比べて大きいからだ。靴底に突起があり、圧力が分散せず点でかかるため、けがを引き起こすこともある。塩之谷さんの整形外科を訪れる患者の中には、スパイクの金具が足裏の親指の付け根を圧迫し、骨にひびが入ったサッカー部の高校生もいた。



足の骨にひびが入った高校生のスパイク。サイズに問題はなかったがインソールがすり減り、突起物のある所に負担がかかったことが見て取れる(塩之谷整形外科提供)

ソフトボール部の女子生徒はランニングを含め、練習の間はずっとスパイクを履いていた。塩之谷さんは「負担が大きいので、スパイクを履く練習は短時間にとどめ、トレーニングシューズなどと履き分けた方がいい」と話す。

サイズだけでなく、幅や甲の高さなど足の形がスパイクに合わないことも痛みの原因になる。形はメーカーごとに特徴があるため履き比べるとよいが「スパイクは選択肢が少ない上にチームで指定されていることもある。合わないときは指導者に相談してほしい」。

履き方にもポイントがある。サイズに余裕がある靴を選んでも、ひもやベルトを緩めずそのまま履くと、足が前に滑り、結局は指が当たってしまう。ひもやベルトは靴を脱ぐ時に緩め、履く時に固定する。足を入れた際にかかとをトンと地面に当て、靴のかかと側に足を寄せてから固定するとよい。この履き方はスニーカーなどスパイク以外の靴にも当てはまる。「ねんぎなどのけがを予防し、走る、跳ぶなどの動きもしやすくなる」という。

塩之谷さんは、栗林さんや義肢装具士の協力を得て診断に加え、靴選びや中敷きなどの加工をする「靴外来」を20年前から開いているが、スパイクを含め、靴の適切な選び方や履き方は定着していないと感じている。栗林さんによると、特にサッカーはボールを足で操るため足に合わせた小さめのサイズを履くケースが目立ち、足の変形を抱える選手は多いという。

「スポーツ指導者や最初に靴の履き方を教える保育士さんにまずは知ってほしい」と塩之谷さん。栗林さんは「成長期の子どもは大人とは違う。能力の向上を求めるより、足が健康に育つことを優先してほしい」と話している。

シューズの選び方・使い方

| | |
|-----|---|
| 選び方 | ▶ 最低1センチは爪先に余裕を持たせる |
| | ▶ ぴったりなサイズを勧められる競技のスパイクも小中学生は余裕が必要 |
| | ▶ 成長期はサイズを定期的にチェック |
| 使い方 | ▶ ひもやベルトは脱ぐ時に緩め履く時に固定 |
| | ▶ 足を入れたらまず靴のかかとに足を合わせる |
| | ▶ スパイクを履く時間は短時間に |



人生の最後、大切にしたい価値観は… 緩和ケア科の医師がつくった「もしバナゲーム」 人気 産経新聞 2017年11月24日



「もしバナゲーム」をプレーする蔵本浩一さん（左）と原沢慶太郎さん（右から2人目）ら

余命わずかとなった人生の終末期を想定し、「最後の時間をどう過ごすのか」「最後に大切にしたいものは何か」について、家族や医師らと気軽に話し合うきっかけにしてみたいと、医師がカードゲーム「もしものための話し合い もしバナゲーム」を作った。昨年、一般向けに販売を始

めたところ、すでに1千セット以上が売れる好評ぶりだという。

価値観を認識

制作したのは、亀田総合病院（千葉県鴨川市）疼痛（とうつう）・緩和ケア科医師の蔵本浩一さんと、在宅診療科医師の原沢慶太郎さん。

ゲームは「家族と一緒に過ごす」「機器につながれていない」「痛みがない」など、人生の最後に関する価値観について書かれた35枚のカードを使い、自分が大切にしたい価値観を認識する。

もともと米国で生まれたカードに、独自のルールを加えて世に出した。それは「自分が余命半年だと仮定し、そのとき大切にしたい価値観に近いカードを集める」というルール。最後に、集めたカードに基づいて、自分の考えをほかの人に説明する。

今回、初めてプレーした50代の介護職の女性は「あらためて自分が何を大切にしているのか、気づかされました。たとえば『痛みがない』は絶対に譲れないな、とか」と感想を述べた。

蔵本さんは「ほかの人の話を聞くプロセスが大切。自分が捨てたカードをほかの人が取るなど、それぞれに大切なものがあることが認識できる。医療者や介護者にとっても患者らの気持ちを共有できるので有意義です」と話す。

以前、カードを購入した女性は「病気の舅（しゅうと）が持っている終末期の希望と、夫の考え方が明らかに違うと感じるが、本人同士は話し合うことがない。カードを使ってそれに気づいてほしい」と語っていたという。

変化も大切に

大切にしたい価値観は、時間とともに変化する。原沢さん自身も、ゲームを開発した4年前は独身だったが、その後、結婚。すると、選ぶカードが「家族のため」を意識したものに変わったという。

蔵本さんと原沢さんは病院の仕事とは別に、一般社団法人iACPを立ち上げ、ゲームを使ったワークショップを各地で開くなど、ゲームの普及に力を入れている。購入・問い合わせは「iACP」のホームページ（<https://www.i-acp.org/>）から。

（「終活読本 ソナエ」秋号から）

【プレー方法】参加者が4人の場合、手札として5枚ずつカードを配り、さらに場札として5枚のカードを表向きに並べる。残ったカードは積み札として中央に裏向きに積んでおく。

参加者は順番に、手札から不要なカード（自分の価値観とは異なる、あまり大切とは思わない事柄が書かれているカード）を場に出し、場札から必要なカード（自分の価値観に近いと思うカード）を1枚取る。場札に交換したいカードがなければパスする。

全員がパスしたら場札を流し、積み札から新たに5枚を場札として表向きに並べる。これを積み札がなくなるまで繰り返す。最後に手元にある5枚から特に重要と思う3枚を選



び、ほかの参加者に選んだ理由を説明する。

国民文化祭・おおいた2018 来年の本番へPR プレイベントにぎわう JR大分駅



前 /大分 毎日新聞 2017年11月24日
プレイベントを和楽器で盛り上げる「DRUM TA O」

来年の「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」を広く知ってもらおうと23日、大分市のJR大分駅前でプレイベントがあった。本番にも出演する県内の団体のステージがあり、多くの来場者で盛り上がった。

同文化祭は、来年10月6日～11月25日

に県内全域で開かれる。

頼りがち「スマホ育児」注意点は 専門の医師に聞く 朝日新聞 2017年11月25日

乳幼児にネット動画・画像を見せる

メリット

デメリット

| | | |
|-------------------------------|----|---|
| 歌や踊りを楽しめる 78.1% | 1位 | 目や健康に悪い 84.8% |
| 知識が豊かになる 44.4% | 2 | 夢中になりすぎる 80.7% |
| 作る、描くなど 表現力を育む 38.4% | 3 | 長時間の視聴 や使用が続く 75.2% |
| 親子でのコミュニ ケーションが増す 29.9% | 4 | インターネットでの 有料サイトや危な いサイトにアクセス する可能性がある 71.3% |
| 小学校以上の 学習で役に立つ 24.9% | 5 | 大きくなったとき、 依存しないか心配 68.3% |

母親が複数回答。数値は「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計。10項目のうち上位5位。ベネッセ教育総合研究所の調査から



合ったり、叱ったりは続くはず」

ベネッセ教育総合研究所は3月、首都圏に住む未就学児がいる母親3400人にアンケート調査（第2回乳幼児の親子のメディア活用調査）を実施した。その結果、乳幼児の約

乳幼児にネット動画・画像を見せるメリットデメリット

乳幼児にスマートフォンで遊ばせる「スマホ育児」。家事などで手を離せない時、つい頼りがちだが、子どもたちへの悪影響も心配だ。ネットとどう付き合わせればいいのか。親たちの多くが模索している。



「大人も時間を忘れてネットを見てしまいがち。子どもが熱中しないわけじゃないですよ。3人の子どもを育てる保育士の石井真理さん（33）＝岡山市北区＝は話す。

長女（3）は1歳半ごろからタブレット端末を使い、動画サイト「ユーチューブ」でアニメや歌の動画を見るようになった。好みの動画を探し、寝る間も惜しんで見るようになり、「タブレット漬けになってしまうんじゃないかと焦った」。時間帯や見る時間を決め、守れない時は端末を取り上げた。一方で、長女と次女（1）が動画を見ている間は「手が空く貴重な時間」。仕事や家事をすることも多い。

9月に端末が壊れ、親のスマホなどでたまに動画を見る程度になった。だが、小学生の長男（10）も携帯型ゲーム機で動画などを見るのに夢中だ。「ネットに触れる機会は大きくなるにつれて増える。使い方の約束を作ったり、話し

2割がほぼ毎日スマホで動画などを見ているとの結果が出た。前回調査（2013年）に比べ倍近く増えた。

ネットの動画や画像を見せることのデメリットとして、健康への懸念に次いで「夢中になり過ぎる」「長時間の視聴や使用が続く」との回答が多かった。「大きくなったとき、依存しないか心配」という項目も上位だった。

親の介入不可欠 ふれあう時間を 専門家指摘

親はどんな点に注意すればいいのか。岡山県精神科医療センターで子どもの精神的問題などを専門とする牧野和紀医師は「無限のコンテンツを提供するネットはテレビやゲーム以上に魅力的な存在。自分をコントロールすることが難しい子どもがネットを使う時は親の介入が不可欠」と指摘する。

センターでは、不登校や家庭内暴力といった問題と一緒に、ネット依存に悩む中高生らが受診し支援を受けている。保護者が依存を疑い、小学校低学年の児童が受診したケースもあるという。「依存に陥ってから治療や支援を受けるのは本人も家族も大変。乳幼児期からスマホを子どもだけで触らせない、見る時間を決めるなどの工夫が必要」と牧野さんは話す。

「育児において、スマホについてのウェイトが健康や食育などと同じくらい大きくなっている」。そう語るのは県青少年健全育成促進アドバイザーなどを務める筒井愛知さん（50）だ。

中学校や高校で携帯電話やネットの使い方について講演をしてきた筒井さん。2009年から保育園や幼稚園でもスマホ育児をテーマにした講演を始めたが、当初は年数件だった依頼が昨年8件、今年11件と急増しているという。

講演ではいつも実体験の重要性を訴えているといい、「五感が刺激されることは子どもの成長に必要不可欠。外遊びや親子のふれあいの時間をしっかり取って欲しい」と訴える。

障害者就労支援施設に専門家派遣、農業技術で工賃アップ



大分日日新聞 2017年11月24日
アドバイザーの熊沢誠人さん（左）と共に作業をするぶらぼう作業所の利用者＝大分市

就労支援施設に通う障害者の工賃を上げるため、県は本年度から農作業を手掛ける施設に専門家を派遣している。土づくりや地域に適した作物の栽培法、販路などを助言。収穫量を増やし、付加価値のある農作物を生産することで収益アップを図るのが狙いだ。

県によると、企業で働くのが難しい障害者に就労の機会を提供したり、訓練をする「就労継続支援B型事業所」の1カ月の平均工賃は1万6237円（2015年度）。作業に農業を取り入れている県内32事業所の平均工賃は1万1407円（同）で、4830円低い。専門知識のある職員がいないことや販路が少ないという課題を抱える。

改善に向けて、元県農業改良普及員の熊沢誠人さん（67）が各施設を訪問している。農地の状況を把握し、要望を聞きながら指導する。「一般の人が農業で収入を得るのは難しい。付加価値のある作物を販売できるよう技術を伝えていきたい」と熊沢さん。

大分市永興のNPO法人ゆうゆうが運営する「ぶらぼう作業所」（神田道子代表理事）は7年前から、同市高崎の農園で野菜やハーブを栽培。朝市などで販売してきた。

「土地に適した作物や収穫物を増やす方法は素人では分からない」。一。作付面積を広げたいと考え、今年5月からアドバイスを仰いでいる。

熊沢さんが土壌調査をした結果、野菜類の成長に必要なマグネシウムが極端に少ないことが分かり、土壌改善につなげた。

神田代表理事（77）は「障害のある人にとって、自然に囲まれた場所で作業するのは大事な時間。専門家のノウハウで農作業の赤字が縮小し、利用者の工賃上昇につながれば」と期待している。

福山市長「法的措置の検討必要」 解雇障害者の再就職へ継続支援

山陽新聞 2017年11月24日

福山、府中市の就労継続支援A型事業所2カ所を利用する障害者112人が一斉に解雇された問題で、福山市の枝広直幹市長は24日、記者会見し「突然に解雇通知を送り、賃金が支払えないという悪質な事案」との認識を示した。

枝広市長は、事業所を運営していた一般社団法人「しあわせの庭」（福山市曙町）に対して「広島県とも相談しながら、法的措置の検討も必要ではないか」と強調した上で、解雇された障害者が再就職し、生活の安定を取り戻せるよう「継続した支援に取り組みたい」と述べた。

経営悪化が破綻直前まで障害者側に伝わっていなかったことについては「早め早めに状況を説明するよう、事業者を指導していたが、法人に対する監督権限が市にはないため、経営実態を把握しづらい状況にあった」と釈明した。

障害者雇用拡大へ新社屋 日生子会社、床面積8割増 日本経済新聞 2017年11月24日



日本生命保険は24日、障害者雇用のための特例子会社、ニッセイ・ニュークリエーション（大阪市）の新社屋を大阪市内に建設すると発表した。延べ床面積を現社屋に比べて約8割増やす。投資額は数十億円で、2019年12月の完成をめざす。18年4月に障害者の法定雇用率が引き上げられるなか、障害者雇用を今後も増やせるよう環境を整える。日生は障害者雇用を拡大する（「ニッセイ・ニュークリエーション」の新社屋完成イメージ）

ニッセイ・ニュークリエーションは全国の日生や関連会社の印刷物制作などを担当。障害者約220人が在籍しているが、現社屋は手狭となっており、一部の社員は兵庫県尼崎市にある事業部に配置している。

新社屋は現社屋に近いJR東西線・御幣島（みてじま）駅（大阪市）近くに建てる。18年8月に着工、地上4階建てで、延べ床面積は現社屋の1.8倍の8600平方メートルになる。最大400人程度が働くことが可能になり、尼崎事業部も新社屋に合流する。

6人同時に乗れる車いす用エレベーターを4基に倍増するなど設備も充実させる。現社屋の今後の利用法については未定だとしている。

日生の障害者雇用率は6月時点で2.15%。企業の障害者を雇用する義務である法定雇用率は18年4月に現行の2%から2.2%に引き上げられ、21年3月末までに2.3%へ上がる見通しだ。今後の雇用増をにらみ、設備を整えることにした。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行